

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 23 章 6-12 節 ＞

1 ルカだけが記す今日の個所を読むときに覚えておきたいこと。

ルカがなぜピラトがヘロデの下にイエス様を送ったことを記したのか？ その理由を聖書から思い巡らして福音(よい知らせ、マルコ 1:1)に導かれることが、今日の聖書の個所を読む一番大事な目標です。

2 ヘロデについて知っておきたいこと。

ここに出て来るヘロデ・アンティパスとは、兄弟の妻ヘロディアを奪った罪を非難したバプテスマのヨハネを殺し、その生き返りだと人々が言っているイエス様に関心を持ち(ルカ 9:7-9)、ついに殺そうとした(ルカ 13:31-35)人物です。ですから、来週はピラト(英語では pilate は道徳的責任を回避する人も意味する)の罪を考えますが、このヘロデの罪も神様の御子イエスを殺すことになる原因の一つである重い罪を犯したことになります。ルカはそのことを考えてこれを読む者に、「今日の個所のヘロデのしたこと、その言動をよく考えよ、あなた自身はどうか」と問いかけようとしたのではないのでしょうか。

3 ヘロデの姿は私たちとは関係ないか？ 否、私たち自身の姿！

ヘロデはうわさを聞いていたイエス様に関心を持ち、会いたいと思っていたとあります。しかし、それはイエス様がなさるしるし(奇跡)を見ただけであり、それによってイエス様を信じようとする気持ちは端からなかったのです。イエス様はそのような思いを見抜き、その時には何も言わず、何もされないお方です。そして、その様な姿を示したイエス様をヘロデはあざけり、侮辱してピラトの元に戻し、それまで敵対していたピラトとの仲が良くなったというのです。

4 このヘロデに救いはあるのか？ 聖書は何と語っているのか？

旧約聖書の神様は誰の死をも喜ばれない神様なのです(エゼキエル書 18 章。特に 21-23、30-32 節：どんな悪人にも、どこまでも立ち帰る、悔い改める[シュープ。方向転換する]ことを期待して下さる神様)。その神様が送られたイエス様なのですから、イエス様が何をされ何を言われようが、ただ黙ってヘロデの前に立ち続けられるのは、その時にヘロデの方が自分の罪に気づくことを待って下さっていたのではないのでしょうか！ 私たちも同じです。神様はいつか、どこかでイエス様を通して神様に立ち帰ることを待って下さっているのです。